

令和元年 1 1 月 2 9 日

6 学年保護者 様

令和元年度 全国学力・学習状況調査について

上田市立本原小学校

4 月 1 8 日に、6 学年を対象に実施されました全国学力・学習状況調査について、分析、考察を行い、子どもたちの学力の伸長や生活の充実を願い、以下のようにまとめましたので、お知らせいたします。

1 学力にかかわる結果

- (1) 国語 (本校 63% 県 64% 全国 63.8%) 全国平均をわずかに下回っている。
- (2) 算数 (本校 61% 県 66% 全国 66.6%) 全国平均を下回っている。

2 学力にかかわる結果と今後の指導の方向

(1) 国語について

国語の正答数の分布グラフをみると、ほぼ正規分布と同じ傾向の山になっていますが、その中でも上位 (13 問・12 問) に山があり、正規分布のピークよりやや下にもう一つの山があります。また、下位にもわずかな山がみられます。読解力のついでの子が全国平均より多くいる反面、理解に時間のかかる児童、文脈に沿った正しい漢字の使い分けができない児童がいたことがわかりました。

<今後の指導の方向>

- ① 理解に時間がかかる児童には、分かるところまで立ち戻り、復習を取り入れながら、分かりやすく教えることを意識した授業を行う。同時に、理解力のある児童にも合う難度のある問題を授業の中に組み入れていく工夫もする。
- ② その文脈 (場面) にあった漢字の使い分けに誤りが多かったので、どういう文章の中でその漢字を使用するのか、漢字のもつ意味を考えながら、文章の中で正しい使い方が習得できるように練習させていく。
- ③ 単元ごと、特につける力をはっきりさせ、学習計画を立てる。そして、児童にはその単元で目指す姿をイメージさせ、児童自身が単元を通して自己評価ができ、ついた力が実感できるようにまとめる工夫をする。
- ④ 授業の導入場面で学習課題が児童にすわる工夫をし、対話的で協働的な学びを通して、すべての児童が意欲的に取り組める工夫をする。
- ⑤ 説明文や物語文では、必要な情報を得るために、文章全体を概観して、文章構成や表現上の技能などをつかませ、自分の知識・経験・考えなど関連づけながら筆者の意図を読み取るように指導する。また、自分が文章を書く際に活かすことができるようにするために、グループや学級全体で話し合いながら深めていく授業の工夫をする。
- ⑥ 日頃の発言やスピーチなどで、聞き方や聞く人に伝わる言い方を意識させるようにする。

(2) 算数について

学年全体として、平均正答率が61%で、県66%、全国66.3%と、全ての領域が全国平均を下回っています。特に、記述式の正答率が88.6%と低く、しっかり文章を読まずに解答してしまう傾向もあるように思います。よく文章を読み、自分の考えをしっかりと書こうとする力や意欲を高めていく必要を感じます。

<今後の指導の方向>

- ① 1時間ごとの授業の導入場面で、ねらいを児童にしっかりつかませ、見通しを持って授業に望めるようにしていく。
- ② 問題文に線を引いたり、数字に○をしたりして、問題文の内容を正確に読み取り、思考過程の図や筆算を残すなど、一つ一つの問題をあわてず丁寧に考え解いていくようにさせる。
- ③ 自分の考えを言葉や式や図などで表したり説明したりすることを大切にしていく。その際、協働的な学びをする場面の工夫をすることで、友達の意見を取り入れながらより深い学びとなるように工夫する。
- ④ 授業で個別の問題が終了し、学習に余裕がある児童には、より難易度の高い問題に取り組ませるようにする。また、他の児童へ説明することで、学びの定着が図れるようにする。
- ④ 基本問題を習熟させるために、ドリルの時間を有効に使いながら既習内容の振り返りをし、丁寧に支援していくことで学力の定着をはかる。

2 児童質問紙について（顕著なもの・気になるものを抽出）

	質 問 内 容	全国との比較
1	自分にはよいところがあると思いますか。	↓
2	先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか。	↓
3	普段学校以外でどれくらいの時間勉強しますか。	↓
4	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。	↓
5	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	↑

※全国との比較は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計の比較です。

質問項目 1 2【自己肯定感】

自分にはよいところがあると思っている児童が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせても54%で、自己肯定感が低い。(昨年100%) また、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますかは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて77%に対して、全国は86%あり9%ほど下回っている。

→周囲に認められたり自分のがんばりを感じたりする機会を学校生活の中でさらに設けていく。家庭や地域の中でもほめる機会を設けていくよう呼びかけていく。自己肯定感は学習を含めて

様々なことへの意欲の根源になるので、学校生活の中でも、児童の様子をよく観察し、よさを見つけほめ励ましていきたい。また、毎日の活動や行事の取り組みなどの中で、自己の振り返りや友達同士の伝えあいなどで、自分のよさを感じられるようにしていきたい。

質問項目 3 4【家庭学習・他への応用】

学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日どれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾や家庭教師も含む）の3時間以上・2～3時間以上の合計の割合が全国39%に対して本校は15%と低い。また、「授業で学んだことを他に生かしていますか」の問いでは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、全国が83%に対して、本校は72%と低い。

→普段、宿題として与えられたことはやるが、自主的に課題を見つけて取り組もうとする姿勢が弱いのではないかと考えられる。また、予習や復習はしないという子も多く、そのことからポイントが低くなっている面もある。自主学習などでの主体的な取り組みができるようなプリント等を用意して働きかけをしていきたい。また、学んだことをただ覚えるだけでなく、自分の知識・経験と関連付け、学んだことの意味とそれが生活にどう生かされているかまで考えていく時間をとっていきたい。

質問項目 5 【地域行事への参加】

問い「今住んでいる地域の行事に参加していますか」（全国37% 本校57%）「地域や社会をよくするために何をすべきか考えているか」（全国18% 本校26%）は、「当てはまる」の割合が、全国に比べて高かった。

→本校の児童が、豊かな自然や地域の活動の中ですくすくと育てられていることがわかる。学校でも児童会の行事の計画や運営、学級行事、総合的な学習の時間などで、子どもたちが自ら計画して充実感を得られる学習を考え、地域の活動に積極的に参加し、地域社会に貢献できるような児童の育成にさらに励んでいきたい。

○卒業までの4ヶ月

中学校進学を見据えて、基本的な日常生活をきちんと過ごすことを大切にしていきたい。さらに、提出物をしっかり出す、学習でわからないことは自分で調べたり人に聞いたりしながら自分でわかるようにしていく方法を身につける、係や委員会の仕事などやるべきことを責任持って行うなど、意識づけながら、学校生活の充実をはかり、学力向上に努めていきたい。

※全国学力・学習状況調査の個人票については、個別懇談会の際にお渡しして、説明をしたいと思います。よろしくお願い致します。